事業推進の心　仮設労働安全新生プラン

陽のあたる安全文化の創造

もうよそう　ヒューマンエラーの他人事
築こう　安全足場で身近なしあわせ
めざそう　安心して暮らせる　心豊かな国創り

ACCESS新聞
Alliance Cooperation of Construction Equipment & Scaffolding for Safety

Vol.5
編集・発行人　松本邦宏
発行所
全国仮設安全事業協同組合
〒103−0001
東京都中央区日本橋小伝馬町15−18　日本橋SKビル
TEL03−3639−0641
FAX03−3639−0640

北海道支部	〒060-0807	札幌市北区北7条西4−1−2（札幌丸増ビル4F）	電話(011)738−0641	FAX(011)738−0640
東北支部	〒984-0816	仙台市若林区河原町1−3−24（大和第2ビル1F）	電話(022)716−6701	FAX(022)716−6710
関東支部	〒103-0001	東京都中央区日本橋小伝馬町15−18（日本橋SKビル4F）	電話(03)3639−1571	FAX(03)3639−3980
北陸支部	〒950-0951	新潟市鳥屋野2−11−16（古木工業ビル1F）	電話(025)282−1031	FAX(025)284−7810
中部支部	〒460-0008	名古屋市中区栄3−28−21（愛知建設業会館6F）	電話(052)249−7661	FAX(052)242−6280
近畿支部	〒530-0012	大阪市北区芝田1−4−14（芝田町ビル8F）	電話(06)4802−3071	FAX(06)4802−3070
中国支部	〒730-0017	広島市中区鉄砲町5−21（協栄生命広島鉄砲町ビル5F）	電話(082)511−2051	FAX(082)227−2720
四国支部	〒760-0055	高松市観光通2−2−15（ダイヤビル本館7F）	電話(087)812−0131	FAX(087)812−0130
九州支部	〒812-0011	福岡市博多区博多駅前4−10−13（奥村第3ビル4F）	電話(092)472−7000	FAX(092)472−7100

ホームページ http://www.kasetsuanzen.or.jp/ Eメール info@kasetsuanzen.or.jp 各都道府県の支所へのお問い合わせは、各ブロックの支部まで連絡ください。

新春メッセージ　新世紀への価値創造

ACCESSの厳粛なる安全文化創造への挑戦は健全なる建設産業の発展へと革新し、平等なる人命尊重社会を創造する

近年の建設業における労働死亡災害は毎年800人前後となっており、他産業の平均と比較すると労働人口比で7倍強の死亡災害率である。とりわけ墜落死亡災害は毎年300人超であり、そのうちの3分の1は60歳以上が被災しており、また50歳以上の人で3分の2を占める。

一体これはなんでしょうか！　こんな惨（むご）いことがあっていいのでしょうか、まるで世界残酷物語である。IT（情報技術）革命が叫ばれる中、完全にゆがんだ社会が取り残されている。いつも安全第一を唱える建設業界は、人命尊重の社会倫理をお金だけの経済論理で駆逐され続け、現場職人のものづくり軽視のこんな業界に未来はあるのでしょうか。

建設関係人を問わず国民はこれを正視しなければならない。

墜落災害の大部分は仮設に起因している。私たち仮設業界にも重大なる責任がある。

〝もうよそうヒューマンエラーの他人事〟の片棒を担いできたのである。ACCESSは安全文化の創造をしなければならない。

文化の改革は多くの抵抗を伴うが信念をもって貫き通し、正攻法で正々堂々しかも粛々と安全文化創造への挑戦をし、尊重される職人専門工事業へと経済構造の改革を誘発し、健全なる建設産業の発展と〝天上天下唯我独尊〟人の命の尊さは何人も平等である社会システムを構築しなければならない。

ACCESSの具体的使命と役割の実施

高所作業にはまず最初に安全帯、第二に安全帯、三、四がなくて第五に足場。

最初から命綱にかける仕事のやり方はまるで命を賭けることになる。これが今までの文化である。

これからは『第一に足場、第二に養生ネット、第三に安全検査、そして念のための安全帯』の安全文化の意識改革と実施の革新をし、仮設に起因する労働災害の撲滅を目指す。

＜ハード面の実施＞
- 2mを超える高さの作業には必ず足場を装備すること。
- 足場は高齢者でも安心して働ける墜ちない、落とさない構成であること。
- 万が一、墜ちても落としても大事に至らないための養生ネットを装備すること。

＜ソフト面の実施＞
- 仮設計画図の作成による届け出および備え付けをし、行き当たりばったりの場当たり的作業を改めること。
- 仮設製品の安全検査、仮設施工の安全検査を徹底実施すること。

＜斡旋事業の推進徹底＞
- 情報の公開と開示
- 公明正大なる適材適所への適格者の斡旋
- 平等なる権利と義務の遂行

新生ACCESSの成功へ

私たち仮設業界は昨年、ACCESSを立ち上げ、今、入魂しようとしている。組合員が各自の役割を実行すれば、安全文化の創造は国民運動へと伝播し、周辺業種へモラルの向上をうながし、見る間に災害は激減する。5年で半減し、10年で先進国際標準に優る安心職場の創造となる。

これに並行して、ACCESSのバリューアップが連動し、組合員の事業安定へと繋り洋々たる中、健全なる建設産業の発展へと革新結実することとなる。組合員一同相互扶助の精神にもとづき一致団結し、「陽の当たる安全文化の創造」を通じ、健全なる建設産業創世に邁進（まいしん）しようではありませんか。

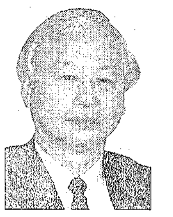
世のため、人のため、自分のために。皆さまのご健勝をお祈り申し上げます。

新世紀2001新春
全国仮設安全事業協同組合
理事長　小野辰雄

仮設安全時評

安全に「仮設」「本設」の区別なし

国土交通省　大臣官房官庁営繕部　部長　春田　浩司



官庁営繕部におきましては、地球環境問題、高齢化への移行、情報化の進展等、社会環境の変化を背景に、多様化する国民のニーズに対応するため、環境配慮型官庁施設の整備、バリアフリー化庁舎の整備、シビックコア地区整備、耐震安全性の確保、官庁施設ストックの有効活用等の施策を講じて、良質な官庁施設の整備を推進しております。

一方、建設現場に眼を向けますと、近年、一般的な労働災害は生産・製作の工程の近代化により著しく減少しているにもかかわらず、社会資本整備の第一線である建築工事現場における建設労働災害は、微減のレベルに止まっており、その一層の減少に向けた取り組みもまた、重要な課題の一つであります。

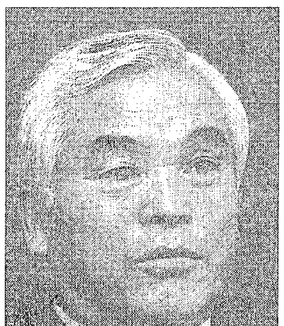
建築現場で工事目的物を完成させるために必要な仮設は、設計図書に特別のさだめがある場合を除いて、任意仮設が原則となっており、基本的に請負業者がその責任において定めることとなっております。しかしながら、建設コストの数％にしか過ぎない仮設に起因する災害が、労働災害の半数以上を占めていることを考えれば、その災害防止対策の基礎的な対策が行われないままに放置され、あるいはその対策が不十分のままに終わっていることが、災害発生の要因の一つになっているものと思われます。

仮設（足場など）は、すなわち臨時のものであるという考えから本設（建築物）と比し、とかく軽視されがちでありますが、安全には、本来「仮設」「本設」の区別などなく密接不可分であり、両者を分けて考えることは適当ではありません。建設労働災害を減らすということは、仮設にも十分な注意を払い安全を確保するということに他なりません。

企業において経営の効率化が急速に進められている中にあって、今後労働災害を減少させ、労働者の安全と健康を確保向上させていくには、従来にも増して関係者の努力と工夫が一層重要になってきます。また、本格的な高齢化社会への移行、IT（情報技術）等の導入による技術革新の進展等に伴う産業構造・就業構造の変化、労働形態・職場環境の変化に当面しており、安全についても新たな対応が迫られております。労働災害の防止は、今後、事業者の自主的な活動が従来にもまして重要であり、労働災害防止団体等の使命と役割も一層大きくなるものと認識しております。このような状況のなかで、全国仮設安全事業協同組合におかれましては仮設部分に目を向け、仮設安全機材の施策、仮設安全管理等ハード面及びソフト面の両面からの取り組んでおられます。ACCESS新聞が、建築工事現場における仮設に起因する労働災害の撲滅のために大きな役割を果たされることを期待しています。

新春対談　2001年の展望・活動

2001年新春。21世紀の幕開けです。私たち全国仮設安全事業協同組合が産声を上げて初めての年明けが、世紀の変わり目という幸運にめぐりあったことを記念したいと思います。組合活動も発足以来、着々と実績を重ねているところですが、新春にちなみ一級建築士で女優としても活躍していらっしゃる松永典子さんをお招きし小野辰雄理事長と活動状況などについて対談していただきました。



全国仮設安全事業協同組合
小野　辰雄　理事長

一級建築士、女優
松永　典子　さん

（まつなが・のりこ）
東京理科大卒。一級建築士（ID造形センター一級建築士事務所所属）。グラフィックデザイナー。職業能力開発総合大学校非常勤講師を勤めるかたわら、女優としてNHK水曜ドラマ『花へんろ』『ただいま』、同・連続テレビ小説『やんちゃくれ』、CS朝日ニュースター『パックイン・ジャーナル』、CMのキッコーマン『うまさひとしお』などに出演、活躍中。今年はNHKの土曜ドラマ『介護ビジネス』（2月24日から2回シリーズ）、『聖徳太子』（11月10日放送）での出演が決まっている。1994年度準ミス日本。東京都出身。

仮設も「安ければいい」では駄目ですね

松永　あけましておめでとうございます。二十一世紀を迎えたわけですが、新春ということですので本日は、ACCESSの今年の展望や活動状況など、全般的なお話をお聞きして参りたいと思います。まず最初に、組織率からお聞きします。発足から半年余りなのに、この短期間の間にすばらしい成果を上げていらっしゃいますね。

小野　昨年十二月末時点での組合員数は二百八十三社です。六月の発足時が二百六十三社でしたので、約二十社の方がたが新たに入会をされました。物量的には足場専業マーケットの八〇％くらいの組織率ということになります。建設業による労働災害を撲滅して、安心して働ける職場にしたい、というのがACCESSの目標であり、その思いは業界関係者すべてに共通することだと思いますので、魅力ある業界にしていくためにも、希望を言えばすべての足場専業者に組合員になってほしいですね。

松永　活動目的に後ろ向きな方はいらっしゃらないでしょうから、関係する業界の方がたすべてが組合に参加されるのは決して不可能なことではないと思います。個人的にも、業界が一丸となって活動され、建設現場での死傷災害の撲滅を達成されるのを期待しています。ところで、組合の具体的な活動内容はどのようになっているのでしょうか。

小野　政府の安全関係委員会に参加したり、安全対策の在り方を検討、勉強したり、各種の取り組みを行っていますが、何をさて置いても紹介したいのは「現場仮設安全点検活動」です。私どもの組合が現在、もっとも精力的に取り組んでいる事業であり、対外的な活動という点ではこの点検活動に集中して、特化しているといって良いかと思う。組合が存続する限り、あるいは建設現場で労働災害が無くなるまで実施し続ける覚悟です。

労災なくなるまで点検活動続けます

要はなぜ点検が必要なのかということですが、端的に言うと、守らなければならない安全衛生規則などが現実には、守られていないからです。いろんな要因や理由が考えられますが、安全確保のための規則なのですから、守れば確実に事故は減らせるはずだということなのです。さらに必要と考えることを後でお話しますが、まずは決められていることは守りましょうということです。

事故防ぐには法律も進化しなければ

松永　現状を教えていただけますか。どのように守られていないのでしょうか。

小野　細かいことを言ったらきりがありませんが、わかりやすい例をあげるなら、筋交いを省いたり、手すりやネットが不十分など、構造上の欠陥や事故につながる不備が至るところにみられます。

足場は組合員などの足場事業者が設計をして、施工者が組み立てるのが一般的です。足場のことは私たち足場屋が知っているのです。しかし、現実には設計どおりに架設されていないケースが散見される。崩れるような足場ではいけないし、足場のすき間などで足を踏み外して職人が転落するようなことがあってはいけない。

私たちの立場としては、そうした不備のない足場を提供して、職人の方たちが安心して働けるような職場になってもらいたいのです。

松永　長期のスパンでみると、安衛法ができて事故は漸減傾向にあると思いますが、まだまだゆゆしき状況にあるということですね。そういう状況にある大きな原因は使い方に問題があると……。

小野　日本は順法の精神の旺盛な国民であると思います。問題は法律なり規則なりが万全ではないということもありますが、法規を守っているからいい、ということだけでは事故は防げないということに問題の根があります。法律の隙（すき）をかいくぐって、経済性を重視するあまり、架設の際に手を抜くというような現実は、重大な問題なのです。一方で事故を招かないような立派な規則にする必要もあります。法律も進化しなければいけないんです。

松永　二つの問題点を指摘していただきましたが、まず順法活動を展開するのが先ほどお話のありました現場点検活動ということになるのでしょうか。さらに、組合では行政当局に対し、法規の見直しなども要望したり、提言していくということなのでしょうか。

小野　専門の立場として提言は申し上げますが、不備があるなら率先して行政が正していくというのが自然な姿だと思います。要はこの重大な、取り残された仮設に起因する労働災害を撲滅するために、あらゆる関係者がそれぞれの立場で改革、革新をしていけばよいのです。私どもACCESSが積極的に展開するのは、冒頭に申し上げた現場仮設安全点検です。

個人的にはたとえ重装備で高コストの仮設になろうとも、職人が安心して働ける、不可抗力を許さないしっかりとした足場を装備するのが私たちの使命だと考えていますが、それはあくまで最終目標です。

まずは順法の精神で、法規どおりに組み立てられているかどうかACCESSの自主的な活動としてチェックしていこうということです。

欠陥ない足場を提供するための安全監理

松永　私も建築士の端くれとして個人住宅などを中心に設計活動をしていますが、仮設についても「安ければいい」では駄目ですよね。しっかりした施工など後々のことを考えたら、ちゃんとしたコストを考えるべきだと思います。

小野　足場の図面は重要です。しっかりしたものなら本設もいいものができるんです。立派な設計でも足場が良くないと、たとえば溶接もしづらいかも知れないし、ボルトも締めにくい場合があるかも知れない。また、本設には役所の竣工検査がありますが、住宅などの小規模建設工事では足場計画は届け出の必要がないから検査もありません。仮設がなければ、すべて（の物件）と言っていいほど本設はできないのに、これでは落ち度があると言わざるを得ないと思う。

松永　欠陥のない足場を提供して架設する、そのためには安全監理をしっかりやろう、不良品は出さないよ（提供しない）ということですね。そういえば、本紙（『ACCESS新聞』）のVol．4　十二月号で仮設安全点検結果が報告されていますが、半数程度の現場で不備を指摘なさっています。

小野　昨年末に北関東四県でも労基署が一斉立ち入り検査を行い、奇しくも私たちACCESSの点検結果とまったく同じ五四％の現場で改善勧告を出されています。私たちの点検結果については十二月号を見ていただきたいと思いますが、傾向としては半数程度での現場で不備があるといっていいかと思っています。

役所の改善勧告も法規に照らしてのものですので、順法の観点での私たちの点検活動は十分、意味がある。最初は元方のゼネコンなどから敬遠される懸念もありましたが、現場所長さんを含めどなたも協力的で、直接現場に従事されている全員が労働災害の撲滅を願っていることが改めて分かり、力強く感じています。

建設業での死亡災害件数のうち、仮設に起因していると考えられるのは半数強の四百人（年間）を数え、怪我を負う人となると年間二万二千人にも及びます。毎日、全国のどこかで一人以上の尊い命が仮設関係が原因で亡くなっていることになるのです。

新春に当たってACCESSの二十一世紀にかける目標や理念などを改めて周知したところですが（別掲）、建設産業の未来を考えたら、何としても死傷災害を減らす努力をしなければいけません。

松永　お話はまだまだお聞きしたいのですが、残念ながら紙数が尽きて参りました。日々のACCESSの活動状況などについては今後とも、私自身も一読者として、また建築士の一人として本紙などを通じて勉強させていただきたいと思います。ただ、いずれにしましても、恥ずかしい限りですが意識することの少なかった仮設が、小野理事長とのお話を通じて身近なものになったように感じております。

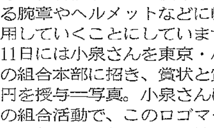
二十世紀から二十一世紀への世紀の変わり目のこの良い節目の時期にACCESSが活動を本格化されたことは、きっと時代のめぐり合わせでもあるのだろうと思います。活動には紆余曲折（うよきょくせつ）がつきものでしょうが、活動を堂々と展開され、必ずや立派な成果を上げられるよう祈念しております。

本日はありがとうございました。

ACCESSロゴマーク決まる

小泉夕子さんの作品に

全国仮設安全事業協同組合（略称・ACCESS）では1月11日の理事会で、かねてより公募していましたロゴマークを正式決定しました＝右図参照。優秀賞には東京都江東区在住の主婦、小泉夕子さんの作品が当選しました。



ロゴマークの募集は昨年9―10月末を期間に実施し、応募件数400件超、応募点数約1,200点が寄せられました。理事会などによる厳正な審査の結果、優秀作品に輝いた小泉さんのデザインコンセプトは、AとEで足場、Cは足場で働く人、Sは安全ネットをイメージし、またAとEを大きくして「安全」と「衛生」の頭文字として表現しています。

ACCESSでは今後、このロゴマークを役職員の名刺、封筒などを始め、現場仮設安全点検の際に着用する腕章やヘルメットなどに幅広く活用していくことにしています。

11日には小泉さんを東京・小伝馬町の組合本部に招き、賞状と賞金20万円を授与＝写真。小泉さんは「今後の組合活動で、このロゴマークが励みになっていただければ嬉しい。建設現場での労災事故が多いが、これを限りなくゼロに近づけるまで頑張ってほしい」とのコメントを寄せて下さいました。

また、今回の公募ではほかに、佳作に大阪市の中山幸三さんと東京都新宿区の渡辺康秀さんが、特別賞に讃高仮設リース（本社・高松市）がそれぞれ選ばれています。

読者の声

明けましておめでとうございます。仮設組合のますますの隆盛を祈念しております。「いつから始まるのだろう」と気になっておりました現場点検がスタートしたとのこと、何よりかと存じます。今後とも定期的に状況をお知らせ下さい。

（「読者」より）

出勤前に何気なく見ていたNHKテレビで、労基署が建設現場の一斉立ち入り調査をして、安衛法違反が半数を超えていたといった内容のことを放送していた。放送のしばらく前だったと思うが、ACCESSでも現場の仮設点検を始めたという記事を新聞で読んだ。建設業界は具体的な指摘がないと、なかなか対策行動を顧さない傾向があるから、今後は相乗効果が期待できると思う。新世紀になって災害撲滅がスローガンではなく、現実のものになることを切に願う。

（ゼネコン勤務）

確か『ACCESS新聞』の第一号が発行される少し前だったと思うが、『建設通信新聞』で行政の幹部の方たちが座談会をしている紙面で小野理事長が、建設現場での死傷災害を無くしたい、と熱く語っているのを読んで感動したのを覚えている。そして、仮設組合では何をするのか興味深く眺めていたのだが、十二月の『ACCESS新聞』で現場仮設安全点検が本格的にスタートしたのを知り、なるほど、その手があったのか、と合点した。生意気なようだが、誠に良いことである。「餅は餅屋」ではないが、専門家が点検するのは誠に理にかなっている。行司が相撲も取るような、これまでのやり方を改める良い機会であろう。成果に期待する。

（公務員）

新組合員の紹介

組合員として新たに有元組が加わりました。これにより、一月十一日現在で当組合の組合員数は合計二百八十三社となりました。

仮設安全監理者　合格者一覧 ④

―型枠支保工―
▷関東支部＝岡本純次郎、吉武友則、林茂雄、小山剛和、鎌田浩治、荒木剛、松井政幸、大杉敏昭、古谷睦幸、岩間一仁、数原普文、益田明輝、吉田正信、関根和司、金井宏明、水谷荘二、井手斉、塙登、浜田明、伊藤輝美、寺島宏昌、岡谷理輝、田島功、鷲王田雅人、鬼木敏弘、浅井和雄、中西惠介、関野修一、広野智央、飯田裕之、所昌彬、本間智仁、田畑和久、井野研治、中戸川時彦、加藤隆大、中山敏昌、山崎新生、並河康一、木村芳明、坂元慎吾、岡田陽介、芦川麻衣子、大和一広、大久保卓也、森谷名津江、岡野篤、岡崎達也、川崎泰弘、梅田正一、戸井田和也、前中雅昌、佐々木勝利、伊藤幸二、鴻巣誠一、古谷淳、鈴木秀昭、原田英樹、坂上達也、阿部秀行、坂口泰一、横山昌人、菊地竹雄、中村一郎、矢野光道、門松英治、大湯良子、堀井康弘、河合太郎、吉川聖武、柴崎和利、内田紀行、田島直樹、関保博、管沢勝信、渡田麟治、小峰一浩、笹川雄一、鈴木正人、清水谷健一、伊東聡、伊東直輝、渡辺剛祥、山本幸裕、花畑昭、川井務、川添麟輝、川口浩、瀬山伸二、稲垣和夫、綿内孝之、比留間純、山口和夫、江原収、横堀直巳、山口雄高、河野嘉昭、江原静
▷中部支部＝平松知博、桜井久典、服部直己、増田浩一、野坂靖

―足場―
▷中部支部＝高山雅孝、鈴木和由、平松知博、石田健一、三浦博、鈴木康哉、神谷健一、杉山英武、鈴木英市、桜井久典、服部直己、三森修、堀口登、長谷川幸好、橋爪敏之、大田行則、西和田浩隆、塚田淳、岡山幸裕、織田均、船迫秀信、小倉英樹、梶船、小川裕之

本紙『ACCESS新聞』は、〝安全文化の創造〟をテーマにさまざまな組合の活動や現状を紹介していく組合機関紙（毎月第3水曜日発行）です。これらの記事や活動について、読者の皆様からのご意見を募集しております。ご意見は電子メールまたは郵送で下記までお送り下さい。

電子メールアドレスは、info@kasetsuanzen.or.jp
住所は〒103―0001　東京都中央区日本橋小伝馬町15―18　日本橋SKビル5階
全国仮設安全事業協同組合　本部広報室宛